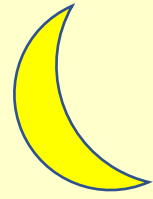


『月に吠える』



『月に吠える』（感情詩社・白日社）は1917年2月に刊行された萩原朔太郎の第一詩集です。1914年から1917年にかけて発表された詩がおさめられています。この詩集は、詩壇に大きな衝撃を与え、朔太郎の詩人としての地位を確かなものにしました。詩集には朔太郎が敬愛する北原白秋と、親友の室生犀星の言葉が添えられています。

『月に吠える』におさめられた詩は、旧来の文語（古来からの読み書きのための言葉）で書かれた詩とはまったく異なるもので、口語（日常で話される言葉）の自由なリズムによってつくられており、その影響は現代まで続いています。

朔太郎はこの詩集の序文に「詩は神秘でも象徴でも鬼でもない。詩はただ、病める魂の所有者と孤独者との寂しいなぐさめである」と書き、研ぎ澄まされた繊細な感性で、孤独感を表現しました。



『月に吠える』（1917年 感情詩社・白日社 表紙画：恩地孝四郎）